

## いわき市小名浜方部赤十字奉仕団

いわき市小名浜方部赤十字奉仕団				
2012年度				
実施日	参加員数	内容	会場	参加人数
1 5月24日(土)	10人	プラントナーに花植え	いわき市 真田町仮設住宅	52人
2 6月18日(土)	11人	プラントナーに花植え	いわき市 真田町仮設住宅	48人
2013年度				
実施日	参加員数	内容	会場	参加人数
1 6月2日(日)	10	花いっぱい運動	いわき市 真田町仮設住宅	72
2 6月2日(日)	10	花いっぱい運動	いわき市 真田町仮設住宅	15
2014年度				
実施日	参加員数	内容	会場	参加人数
1 6月22日(日)	72人	花いっぱい運動と餅つき(復興赤十字奉仕団主催)	いわき市 真田町仮設住宅	92人
2 6月22日(日)	87人	花いっぱい運動と餅つき(復興赤十字奉仕団主催)	いわき市 下天田仮設住宅	96人
3 6月23日(土)	16人	花いっぱい運動	いわき市 真田町仮設住宅	9人
4 7月26日(土)	19人	花いっぱい運動	いわき市 真田町仮設住宅	26人

[活動の実績はこちら](#)



### ★いつから活動されていますか？

- 2011年3月11日 14:46 外部との連絡が制限され、自治体の支援のない初期の段階で炊出しを実施し、大変感謝された。
- 2011年9月、全国の赤十字奉仕団、長崎県赤十字奉仕団より大量の支援品(雑巾、アクリルたわし)が届く。支援品を双葉郡の大熊町、富岡町、双葉町、広野町、楡葉町に方々が生活されている仮設住宅へお届けするため、いわき市内で仮設住宅をかかえている8つの方部の奉仕団委員長宛に、それぞれメッセージを添えて梱包し、仕分けして送付した。
- 2012年に入り、鴻巣市武蔵野赤十字奉仕団が支援に入られるようになり、鴻巣市とは4年間継続中である。

### ★対象はどちらの地域の方ですか？

- 大熊町民、富岡町民の皆さん。

### ★どんな活動をされていますか？

- 餅つき、花いっぱい運動など。仮設住宅や災害公営住宅の建設が始まると、どこの地域の方が住まれるのか、奉仕団や町内会などのネットワークを駆使して情報収集に力を入れ、いち早く活動に繋がっている。情報はお互いに共有し、よりスムーズな活動に繋がるようアイデアを持ち寄り、また、仮設住宅の住民の方のニーズ調査の際に提案していくなど、常に活発に活動している。
- 地域の集会所で、婦人会と復興ボランティアセンターが餅つき交流を開催し、奉仕団も10名ほどお手伝いして仮設住宅の方をお誘いした。地域で一緒になってこれから仲良くやろうと、大いに歓迎した。婦人会等を兼任していることもあり、情報共有がしやすい大変活発な地域である。
- 地域のふるさと祭り、新年交流会、盆踊りなどにも積極的に招待し、その当時の自治会の委員長も毎年参加してくださる。
- 復興支援のタオルで作るゾウを教わり、私達もタオル帽子作りを教えたり、お互いに交流。とにかく心。お一人お一人を大事にし、ここに住んで良かったと思っただけのように交流しようねと言っている。心を開き活動しているので地域でもトラブルはない(ゴミ出しなどでも)。
- 仮設住宅の近くを車で通った際も、必ず声を掛けに行き、「今〇〇の帰りに寄ったよ、元気？」と声を掛けている。



### ★活動を始める際、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか？)

- 仮設住宅の自治会へ、皆さんが元気になるにはどんなご支援がよいのか直接伺った。赤十字のワッペンをつけて行った。
- 仮設住宅支援のスケジュールを頂いた。様々な支援が入っており、いつから支援に入れるか考えた。お花なら心も和むであろうと、ここに至るまでは何度も打合せを実施した。当時委員長は8方部の会長であった事もあり、いわき市地区より情報を得ていた(場所、世帯数、など)。小名浜方部赤十字奉仕団も大熊町、富岡町の仮設住宅へお届けした。
- どこの仮設住宅に何世帯があるなど、各方部奉仕団委員長と情報共有し全てを把握した。



- ここまでの活動に至るまで、仮設住宅自治会へ何度も足を運んで話をし交流してきた。一つの支援に対しても何度も打合せしている。

### ★被災された方々の声はどうでしたか？

- 当所、皆さん無気力に見えた。悩みなどがあっても心を開いてくれない。何度も通い相手の立場を同苦して、明るく笑顔で誠実に声を掛け続けた。
- みんなと集まって何かするような状況ではなかった。「こんなことになってしまって、この仮設住宅に入るまで何か所も転々とした。」など悩みを抱えていて、とても話して頂ける状態ではなかった。
- 地域で復興ボランティアセンターが餅つき交流を開催。仮設住宅の方もお誘いした。
- 仮設住宅の方は支援はありがたくて申し訳ないと感じている。「しかし、私達は帰れない」と、だからこそ私達は仮設住宅へ行く。
- 「年寄りばかりになってしまった。」「じゃあ、何が出来るか考えよう！」と声をかけた。「おしゃべりして、ゆっくりお茶を飲みたい」と、花植えの際に言われた。「私たちが植えておくからお茶を飲もう」と声がかかる。ニーズが変化してきていると感じた。

### ★支援活動において良かったことは何かありますか？

- 婦人会など地域で活動している団体と連携がとれている事。
- 富岡町の仮設住宅に富岡町赤十字奉仕団の方がおり、リーダーシップをとっておられ仲良くなれた。
- 自治会長さんとも仲良くなり、何でも直接やりとりできる。(仲介がないのでスムーズに交渉できる。)
- 大変喜んで頂いていることが嬉しい。相手を思いやる気持ちが大事である。
- 漬物など持って行くと「作り方教えて」と言われ、また深く交流していく。今年、初めてお料理を作ってもてなしていただいた。心を開いてくれたと実感した。
- 仮設住宅の方は少なくなってきている。そんな中近くに住居を求められ転居される方も増えている。仮設住宅での行事に皆さんかけつけて交流が続いていることが事実。

### ★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 仮設住宅の場所がわからなかった。支援に入りたくても場所などの情報がなく困った。そういった情報を県支部、市、社協でも把握していて欲しいと感じた。災害時も日赤担当部局から指示が入らなかったため、あちこち回って情報を仕入れたので、大変だった。情報の一本化が必要である。

### ★今後の支援活動において何か新しい取組み等がありましたらお聞かせ下さい

- 今後は手芸などで交流していきたいと考えていたが、仮設住宅の方より「花植えもいいが、お話がしたい」との要望があった。確かにみんな寄添ってれば楽しいと感じるので、今後はお茶会等を予定している。一人一人のニーズに合わせて変化させ、支援していきたいと考えている。
- 手芸などは会話をしながら活動できるので、積極的に取組みたい。
- こちらの押し付けではいけない。様々な支援が入っている。(スケジュールがいっぱい。)

### ★支援者(奉仕団や他団体)の「こころのケア」の必要性を感じますか？

- 誰でも大事にする私達の団員は素晴らしい。そう言った考えのもと活動にあたっているのも特には感じていない。団員の悩みなどはきちんと向き合い話を聞いている。
- 皆さんとお会いすることは楽しみであるとともに、一人一人大切な友人です。私達の住む地域には、双葉郡の方々が転居されています。

